

帆希

ほ ま れ

The HOMARE NEWS LETTER

No.7

DATE OF ISSUE: 2021.10.1



「かぜまちの家」がスタートします

暑い夏がうそのように、あっという間に9月となり、急に涼くなりました。特に9月は夏休みという長い休み明けの新学期であることから、自殺との関係で、気をつけるべきとされています。特に、非常事態宣言下である今年も、例年と同様に、夏休み明けの子どもの自殺を防ぐためのメッセージや相談先が報道されています。

「はるつげ荘」に来る子どもたちは、家庭が安全ではないために、家庭から避難しています。多くの子どもが学校に行きたいと思っていますが、安全上の理由から「はるつげ荘」からは通うことができません。

「はるつげ荘」の子どもたちにとっても、9月はつらい月となります。「学校にいかない」ことが当たり前の夏休みが終わり、学校に行きたいけどいけないという状況に向き合わなければならないからです。私たちも、学校を継続するためのできる限りの支援はしていますが、「学校に通う」という最大の希望をかなえてはあげられませんでした。

でも、この11月から違います。安全な場所から学校に通いたいという希望をやっとかなえてあげることができるようになりました。11月1日から、自立援助ホーム「かぜまちの家」をオープンします。

「かぜまちの家」は、皆様のあたたかい支援によって実現しましたが、特に、新しく建物を建てた上で、私たちに貸して下さるダイユウホーム株式会社の大木裕信社長には心から感謝しております。私たちの「注文の多い」希望を聞いて、それを形にしてくださいました。本当にありがとうございます。

10月中旬には、建物ができて、皆さんに見ていただくことができると思います。新しい支援ができるとみんな張り切っています。また、「かぜまちの家」のためのクラウドファンディングも現在行っております。皆さんのさらなるご支援をよろしくお願いいたします。

理事長・後藤弘子



自立援助ホーム「かぜまちの家」

2016年4月に子どもシェルター事業を再開して以来、私たちは、子どもたちの大切な居場所である「学校」に通学することができる新たな居場所が必要だと考えてきました。

多くの方々のご支援、ご協力を頂き、今年11月1日に念願の自立援助ホーム「かぜまちの家」を開設する運びとなりました。



「かぜまちの家」は、千葉県内で多数の高校、専門学校、大学を抱える千葉市に開設します。ここはJR総武線、京成千葉線のいずれも利用できるため、広範囲で通学が可能です。また、全居室、インターネットへの有線接続ができ、オンライン授業にも対応することができます。

対象は、主に、高校生、専門学校生、大学生などの学生としましたが、学校を卒業した後も自立まで、できる限りの支援をしていきたいと思っています。

子どもシェルター利用の有無にかかわらず、入所受付をしておりますので、通学をしながら自立を目指す子どもたち、支援を必要とする子どもたちに、是非私たちの活動をご案内ください。

定員は6名、女子限定の小さな施設ではありますが、事業再開から5年という節目の年の新たな船出を、どうか応援して下さい！

〈施設の概要〉名称：自立援助ホーム「かぜまちの家」

所在地：千葉市稲毛区内

定員：6名(女子)

対象：主に学生

入所開始：2021年11月1日 入所相談：随時受付中

かぜまちの家 名前の由来

この度、開設する運びとなりました新しい自立援助ホームに、私たちは、「かぜまちの家」と名付けます。

思い起こせば、「子どもセンター帆希」という私たちの法人の名前は、「豊かな海に恵まれた千葉県の子どもたちを海を進む帆船に見立て、子どもたちの希望に向けての航海を、帆に力を与える風となって後押ししたいとの、私たちの決意」を表しています。

そして、子どもシェルター「はるつげ荘」の名前には、春の訪れを告げるうぐいすの声のように、私たちのシェルターが、厳しい冬の時代を乗り越えようとしている子どもたちに、明るい春を告げる場所でありたいとの願いが込められています。

ところで、うぐいすの初鳴きの頃、私たちを楽しませる花に、梅の花があります。梅の花には、厳しい冬の寒さに耐えたあと、春を告げるあたたかい風の中で薫ることから、「春告げ草」、「風待ち草」との別名があります。

法人を立ち上げたとき、シェルターを開設したときの私たちの思いが、「風」という言葉でつながりました。古来より、帆に風を受けて走る船は、逆風の中では無理をすることはなく、順風になるのを待って船出をするものです。私たちは、新しい自立援助ホームが、子どもたちの人生という航海において、今は逆風が吹いていても、風向きが変わって順風になり、船出をする日を共に信じて待つ、あたたかい場所でありたいと考えています。

その願いを、私たちは、「かぜまちの家」という名前に込めました。

理事・松田和哲

◆ かぜまちの家 施設長からのご挨拶 ◆

猛暑の続く夏の日が突然秋めいて涼しい日々になりました。今年度も気候の変化が激しく、体調を整えることが大変です。そして益々、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっております。こんな毎日の中で新プロジェクトを始動させていただきましたが、ようやく建物も完成に近づき、いよいよ11月1日より子ども達を入所させる目処が付きましました。日々出来上がっていく建物に胸おどらせながら、充実した毎日の生活と子どもの成長を保障できる家にしていく為の準備をしています。「かぜまちの家」の名称に込めた法人の想いと願いが子ども達に伝わるように、そしてここに来てよかったと笑顔を取り戻せるように、毎日安心して希望を持って生活し次のステップに

進めるように、スタッフ一同頑張っております。それでもドタバタと思わぬことが起こりうると覚悟をしておりますが、今後とも、皆様方の温かいご支援を末永くお願いいたします。

かぜまちの家 施設長・柏原美津子



施設長からはるつげ 報告

新施設長からのご挨拶

2021年4月より施設長に就任いたしました目羅です。

今年度は、スタッフ10名で「家庭的で居心地の良い、安心・安全な暮らし」を提供できるように努めております。

私はこれまで、保育所や障害児施設など子どもの施設に携わり、その後、はるつげ荘に関り、3年目となりました。私自身、中高校生の年代のお子さんに関わることが初めてなので、入職当初は戸惑うことが多々ありました。子ども達が発する「お試し行動」や「見て見てサイン」などの意味を理解していくと、乳幼児への対応と同じような丁寧なかかわりが必要であることに気づかされました。年齢相応なことばかけや選択肢の提示などに心がけ「いつもみているよ」「自分らしさを大切に」「思ったことを表現していいんだよ」と心の中で叫びながら、子ども達と向き合っています。スタッフだけでは解決できない事柄も生じますが、理事の方や医師・心理士等の専門職からのアドバイスを受けられる体制が大きき力になっています。

子ども達はシェルターゆえに制限ある中での生活となりますが、学習・宿泊ボランティアさん等とかかわり、初めて経験したピアノやギター・お茶の作法などをマスターし「こんなことが出来るようになった」「これが好きかも」と新たな自分発見をしています。

子ども達もスタッフもその他はるつげに関わってくださる人が居心地良く感じられる空間作りに取り組んで参ります。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

子ども達の様子



子ども達の生活は今後の自立を目的に「自分のことは自分で」をモットーに洗濯や自室の掃除は毎日自分で、浴室やトイレ掃除、食器洗い等は交代で行っています。

午前中の2時間は学習時間。学習ボランティアさんに協力をお願いしたり、自主勉強に励んでいます。

昼食後は余暇活動。ゲームや編み物、読書、楽器演奏・お菓子作りなど主体的に一人、または友達を誘って行っています。特にピアノやギターは繰り返し取り組み、初めて挑戦したとは思えない上達ぶりに驚かされます。おやつ時間にマスターしたクラシック曲を奏でてもらい、優雅なひとときを過ごすこともあります。子どもたちの能力や努力・成長の幅には感心させられます。

季節の行事を大切に、そのいわれを説明したり、行事に即した食事を提供しています。もちろん、子ども達がメインとなり、プログラムを考えたり、得意なことを披露してもらったり、一人一人が主役です。

子ども達が楽しく、安心して過ごせるような環境を提供できるように日々取り組んでいきたいと思ひます。 **はるつげ荘施設長・目羅きよみ**

コ タ ン 報 告

先日私が担当したケースについてご紹介いたします。

本件は、親のネグレクトからシェルターに避難したお子さんなのですが、資格取得を目指して専門学校に入学していたため、環境調整にあたっては通学を継続できることが重要なポイントであると考えました。

この思いは他の支援者も同様であったと思います。

色々方策を当たってみた結果、アパートを借りて生活保護受給と自立援助ホーム入所の二つの選択肢が残りました。生活保護については、市役所のこども関係部署の担当者に生活支援課と折衝してもらっていたのですが、残念ながらけんもほろろで、そんなに生活保護が必要なのであれば学校は諦めて働きながら生活するしかない、学校に行きたくてもいけない子は他にもたくさんいる、といった趣旨のことを言われたそうです。結局、まず自立援助ホームを探してみ、見つからないようであれば私が生活支援課に生活保護受給申請同行をする、という順番で進めて行くことになりました。

自立援助ホーム探しは専ら児相の担当者が行ってくれましたが、常に空きがあるものでもなく、また仮に空きが見つかったとしても、相性や通学への便宜も問題となります。無理に入所しても合わずにすぐに出てしまうようなことになれば、保護前の状況に戻ってしまいますこともあり得ます。

本件では、入所できる自立援助ホームが見つかりましたが、それも運がよかったからにすぎません。また、欠席日数によっては退学のおそれもありましたが、補習を受けることでなんとか退学も免れ、予定通り、資格試験も受けることができました。

親だけに限らず、周囲の大人は子どもが学ぶ機会を最大限保障し、希望する進路へ進めるようにできることはするべきだと思います。そういった各関係者の尽力と幸運で本件は比較的スムーズに事が運びましたが、そのようにいかないケースも数多くあると思います。今後も一人でも多くの子が希望の進路を選択できるようにできる限りのサポートができればと考えております。

弁護士・村上朗子

ボランティア大活躍！

日頃、ボランティアで帆希の活動を支えてくださっている方々の声をご紹介します！



ボランティアスタッフ 田嶋夕紀さん

ボランティアをするようになって4年が経ちました。これまで出会ったたくさんの子どもの顔が浮かびます。ボランティアの立場での子どもたちとの関わりは、はるつげ荘で過ごす時間が全て。お互いに過去も未来もプロフィールも知りません。だからこそ、一緒に過ごす今を大切に過ごしたいと思っています。

ボードゲームで遊んだり、歌を聞いたり、手芸をしたり。はるつげ荘に流れるスローな時間は、私にとっても、慌ただしい日常から一時離れた楽しみの時間です。

ボランティアって何をやるの？と聞かれると、「特別なことはしないけれど、一緒に“いる”ことが一番大切な役割なの。」と答えています。初めのうちは、これで役に立っているのかな？と物足りない位に感じることもありましたが、この頃では“ともにいる”ということこそが、何よりも得がたい幸せなのだと思うようになりました。これからも、はるつげ荘の出会いの中で、豊かな時間を一緒に紡いでいきたいです。

御礼！シンポジウム「子どもシェルターと児童虐待」

2021年5月15日、シンポジウム「子どもシェルターと児童虐待」を開催いたしました。

コロナ禍ということもあり、Zoomウェビナー及びYouTube配信によるオンライン開催となりましたが、およそ300名もの多くの方々にご参加いただくことができました。

基調講演では、広島のかばんちゃんこと、中本忠子様から「腹が減ったらうちに来なさい」と題して、非行少年たちに無償で手料理をふるまい、交流を重ねる中で、子どもたちの置かれた過酷な状況や安心安全な居場所の大切さをお伝え頂きました。

そして、当法人から子どもシェルターの実践報告を発表した後、パネルディスカッションでは、児童自立支援施設千葉県生実学校分教室教諭の川瀬信一様、ルポライターの杉山春様、朝日新聞記者で今年日本記者クラブ賞を受賞した大久保真紀様、児童養護施設「はぐくみの杜」統括施設長の高橋克己様にパネリストとしてご登壇頂き、それぞれの立場から子どもにとっての安心安全な居場所とはどういうものか、私たちひとり一人に

何ができるのかを議論しました。

困難を抱える子どもたちの現状と課題が示され、シェルターのような子どもの居場所を社会全体で作り上げていくことは喫緊の課題であり、今後さらに注力すべきことであるとの認識で一致し、無事にシンポジウムを終えることができました。

また、新聞をはじめとした各種メディアに取り上げて頂くこともできました。改めて皆様方に厚くお礼申し上げます。



自立援助ホーム「かぜまちの家」を応援しよう！

11月1日のオープンに向けて、準備は大詰めに来ています。

子どもたちのベッドや勉強机、ゆっくりくつろげるソファやテレビ、温かいご飯を作るキッチン用品など、子どもたちの生活を支えるためにはたくさんの準備が必要です。

そこで、私たちは、自立援助ホーム「かぜまちの家」の開所を支援するクラウドファンディングを開始しました。

一口10,000円から「かぜまちの家」の開所を応援することができます。

是非ご協力頂けますようお願いいたします。



※このクラウドファンディングは
10月20日までです。

支援の お願い

子どもセンター帆希は、皆様のご支援で支えられています。子どもたちの生活費やスタッフの人件費等には多額の資金が必要です。行政から支給される公費だけでは十分な支援を行うことができません。ぜひ、私たちの活動を支えてください。

① 会員になる

正 会 員	賛助会員
●入会金……5,000円 ●年会費……5,000円	●個人……1口 3,000円 (年間) ●法人……1口10,000円 (年間) ※入会金は不要です

② 寄付をする

金額は問いません。お寄せいただいたご寄付は、子どもたちのために使わせていただきます。

③ ボランティアとして参加する

帆希では、たくさんの力が必要です。常勤スタッフをサポートする、イベントの手伝い、広報活動など、多くの場所でボランティアの方に助けていただいております。詳しくはお問い合わせください。

◆ マンスリーサポーターも引き続き募集中！
子どもシェルター「はるつげ荘」の運営を支えるマンスリーサポーターも引き続き募集中です！



◆ ふるさと納税「千葉市まちづくり応援寄附金」から帆希を応援することもできます！
こちらの制度も是非ご利用ください。



編 集 後 記

前回のニュースレターでお知らせしておりました、帆希の新プロジェクト「自立援助ホーム開設」がついに実現します。自立援助ホーム開設にあたっては、関係各所に働きかけてくださった方、ご寄付くださった方など多くの方々のお力添えをいただきました。改めて心より御礼申し上げます。

自立援助ホーム「かぜまちの家」の開所に合わせて「かぜまちの家」をイメージしたイラストを作成しました。このイラストは、石田貴沙子さんと千葉香緒里さんが、名前の由来である「梅の花」と「風」をモチーフに、かぜまちの家で子どもたちがそれぞれ思うまに伸び伸びと過ごしていることをイメージして描いてくださったものです。

私たちは、自立援助ホーム「かぜまちの家」がイラストのような場所になれるよう、また、子どもシェルター「は

るつげ荘」が引き続き子どもたちの安心・安全な場所であり続けるよう努めてまいりますので、ご支援よろしく願いたします。

自立援助ホーム「かぜまちの家」、子どもシェルター「はるつげ荘」への入所の申し込みは、随時受け付けております。皆さまが、私たちの支援を必要とするお子さんにお会いした際には、是非、私たちの活動を紹介していただければ幸いです。入所のお問い合わせ先は、info@chiba-homare.org（帆希事務局）です。入所申込がありましたら、事務局が受付を行った後、入所担当の弁護士が申込者に連絡致します。

新型コロナウイルス感染症の収束がまだなお見えない状況ですので、皆さまくれぐれもご自愛ください。

理事・永井理矢子

● 寄附金のお振込

ゆうちょ銀行 00170-7-765267

トクティヒエイリカツドウハウジン コドモセンターホマレ

特定非営利活動法人 子どもセンター帆希

銀行からお振込みの場合

ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900）

〇一九店（ゼロイチキョウ店）

当座預金

口座番号：0765267



特定非営利活動法人
子どもセンター帆希

千葉明德短期大学内
〒260-8685 千葉市中央区南生実町1412
info@chiba-homare.org
TEL 043-209-2965（平日9:00～17:00）